

お客様各位

2017年2月8日  
北興化学工業株式会社

## 農薬登録情報

平素より弊社製品をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。  
此の度、2017年2月8日付で下記農薬の適用が拡大登録されましたので、お知らせ致します。

記

**農薬名**

第22499号     **ゴウワンDLジャンボ**

**適用拡大の内容**

1) 適用土壌、適用地帯の欄を削除し、下記のとおりとする。

**【変更後の適用内容】**

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ ノビエ2葉期 但し、移植後 30日まで	小包装(パック)10個(700g) / 10a	1回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。

オキサジクロメホンを含む農薬の総使用回数	クロメプロップを含む農薬の総使用回数	ダイムロンを含む農薬の総使用回数	プロモプチドを含む農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	3回以内 (育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)	2回以内	2回以内

2) 使用上の注意事項を変更し下記のとおりとする。※下線部が変更箇所

**【変更後の注意事項】**

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。  
ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- (3) 苗の植付けが均一となるように、代かき、均平化及び植付作業はていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合には特にていねいに行うこと。

- (4) 処理に当たっては水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。
- (5) 本剤は小包装（パック）のまま10アール当たり10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (6) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるので使用をさけること。
- (7) 散布後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (8) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (9) 以下のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - ① 砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)
  - ② 軟弱な苗を移植した水田
  - ③ 極端な浅植の水田
- (10) 散布後に低温傾向が続くと予想される時においては、雑草に対する効果が劣ることがある。
- (11) 処理後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められない。
- (12) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (13) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (14) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

適用拡大後の製品情報の詳細はこちら [\(農薬製品・安全データシート \(SDS\) 一覧\)](#) からご参照下さい。

以上